郡山市立美術館 常設展示目録

令和 8（2026）年度　第 3 期

2026 年 9 月 30 日 ~ 2027 年 1 月 17 日

※作品は都合により一部展示替えを行うことがあります。

展示室 1　モリス時代のグラフィックデザイン

ウィリアム・モリス（1834 − 96）が活躍した 19 世紀後半のイギリスは、産業革命によって世界を先導する近代国家として発展したヴィクトリア朝時代にあたります。機械化や量産化に反発したモリスが唱えたのが伝統的な技術による手仕事の重要性でした。思想や詩作などとともに、モリスが実践したのが、実用性を備えた美しいものを身のまわりに置く、使うということ。殊に晩年はケルムスコット・プレスを設立するなど美しい本作りに情熱を傾けました。さらに、時代を席巻したオーブリー・ビアズリーのデザイン性あふれる挿絵やページレイアウトなどを中心に、モリスたちが活躍した時代のグラフィックデザインをお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス	
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス	
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景	1745-46 頃	油彩・キャンバス	
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス	
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス	
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ		油彩・キャンバス	
アルバート・ジョゼフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンバス	
サー・フランク・ブランギン	花園	1899 頃	油彩・板	
オーブリー・ビアズリー	おまえの口に口づけしたよ、ヨカナーン （オスカー・ワイルド『サロメ』挿絵）	1893	ラインブロック・紙	
オーブリー・ビアズリー	オスカー・ワイルド著『サロメ』（英訳版） （エルキン・マシューズ&ジョン・レイン）	1894 年刊	ライン・ブロック・紙／本	
オーブリー・ビアズリー	ベン・ジョンソン著『ヴォルポーネ』 （レナード・スミザース社）	1898 年刊	ライン・ブロック・紙／本	
オーブリー・ビアズリー	トマス・マロリー著『アーサー王の死』分冊本（J.M. デント社）	1893 年刊	ライン・ブロック・紙／本	
ウォルター・クレイン（画）	メイクル・ジョン著『ゴールデン・プライマー 子どものための言葉の手引書』第 1 巻、第 2 巻 （ウィリアム・ブラックウッド・アンド・サンズ社）	1884-85 年刊	木口木版・紙／本	
ウォルター・クレイン（著・画）	『夏の女王、またはユリとバラのトーナメント』（カセル社）	1884-85 年刊	木口木版・紙／本	
ローレンス・ハウスマン（画）	クリスティーナ・ロセッティ著『ゴブリン・マーケット』（マクミラン社）	1893 年刊	ライン・ブロック・紙／本	
ローレンス・ハウスマン（画／装幀）	ジェーン・バーロー著『妖精の国の最期』（マクミラン社）	1898 年刊	ライン・ブロック・紙／本	
ウィリアム・ブラウン・マクドゥーガル（画）	ジョン・キーツ著『イザベラ（バジルの壺）』 （キーガン・ポール・トレンチ・トリュブナー社）	1898 年刊	木口木版・紙／本	
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	W. モリス『世界の果ての泉』	1896	木口木版／本	ローダーコレクション
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	ウィリアム・モリス『クピドとプシュケの物語』全 2 巻	1974	木口木版／本	ローダーコレクション
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	W. モリス『クピドとプシュケの物語』プルーフ集		木口木版／ポートフォリオ	ローダーコレクション
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	『フラワーブック』より			
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	キリストの昇天	1875	チョーク、墨・紙	

展示室 2　栗原忠二とその時代

栗原忠二（1886-1936）は、現在の静岡県三島市出身の画家です。19 歳で法律家を目指し上京、中央大学に入学するも、一年半で中退、画家を志して、東京美術学校（現在の東京藝術大学）西洋画科に進みました。当時、東京美術学校の西洋画科では、フランスで学んだ黒田清輝や和田英作らが教鞭を執り、多くの卒業生が師に倣ってフランスに留学するなか、ターナーに心酔していた栗原はイギリスへ渡ります。イギリスではブランギンに師事し、油彩画のみならず、水彩画の技術も学び、詩情あふれる風景画を描きました。

2026 年は栗原忠二生誕 140 年、没後 90 年にあたります。ここでは、栗原忠二を中心に、渡英した画家たちの作品も併せてご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
和田 英作	上総風景	1897(明治 30)	油彩・キャンバス	
片多 徳郎	残雪の庭	1925(大正 14)	油彩・キャンバス	
熊岡 美彦	菊と檸檬	1922(大正 11)	油彩・キャンバス	
小出 楢重	自画像	1918(大正 7)	油彩・キャンバス	
曽宮 一念	静物	1918(大正 7)	油彩・キャンバス	武田光司コレクション寄贈
栗原 忠二	ヴァンス風景		油彩・キャンバス	
サー・フランク・ブランギン	ヴェニス・運河	1924	油彩・キャンバス	
栗原 忠二	ヴェニス風景	1921(大正 10)	油彩・板	
栗原 忠二	ハマースミス・ブリッジ		油彩・板	
栗原 忠二	遠くに橋の見える風景、ストランド=オン=グリーン		油彩・ボード	
牧野 義雄	夜のリージェントパーク	1928(昭和 3)	油彩・キャンバス	
白瀧 幾之助	農婦と牛のいる風景		油彩・キャンバス	
武内 鶴之助	虹（英国牧場風景）		油彩・キャンバスボード	
栗原 忠二	風景（ヨーロッパ風景）		油彩・キャンバス	
高木 背水	曇り日		油彩・キャンバス	
栗原 忠二	オックスフォード		グワッシュ・紙	
南 薫造	教会堂		水彩・紙	
石橋 和訓	男性裸像	1907(明治 40)	油彩・キャンバス	
荒井 陸男	裸婦		油彩・キャンバス	(有) ヒノギャラリー寄贈
原 撫松	婦人像	1906-7(明治 39-40) 頃	油彩・キャンバス	
松山 忠三	松山夫人、ホームウッドにて	1923(大正 12)	水彩・紙	
南 薫造	日没		水彩・紙	
栗原 忠二	ダンス		グワッシュ・紙	

展示室 3　没後 20 年 安藤重春～作品修復からみえたこと～

安藤重春（明治 45- 平成 18）は市内の清水台にある安積国造神社の宮司家に生まれ、旧制安積中学校（現福島県立安積高校）を卒業後、東京美術学校（現東京藝術大学）日本画科へ進学します。戦後は安積幼稚園、あさか児童画クラブを設立し、郡山の美術教育にも尽力しました。

当館では 17 点の安藤重春作品を所蔵しており、いずれも高い人気を集めています。特に《雨の華》は、「安藤重春展」（郡山市立美術館、平成 11 年 2 月 27 日 -3 月 28 日）の図録の表紙を飾り、さらに人気投票による常設展示「私のお気に入り、ベスト展」（平成 26 年 7 月 16 日 -10 月 19 日）で第 1 位に輝いた安藤の代表作の一つです。安藤作品を美しいまま後世に伝えるため、今年令和 8 年《午后》と《雨の華》の修復を行いました。繊細に、しかし重厚に絵具をのせていく安藤の作風を、修復の過程からみえてきたことと共にご覧いただきます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
安藤 重春	妙法寺仁王門	1932-37(昭和 7-12) 頃	岩絵具・絹	安藤重春氏寄贈
安藤 重春	あんず	1932-37(昭和 7-12) 頃	岩絵具・絹	安藤重春氏寄贈
安藤 重春	笹	1932-37(昭和 7-12) 頃	岩絵具・絹	安藤重春氏寄贈
安藤 重春	土手	1960(昭和 35)	岩絵具・紙	安藤重春氏寄贈
安藤 重春	みちのく（蓮田の道）	1966(昭和 41)	岩絵具・紙	
安藤 重春	帰去来	1972(昭和 47)	岩絵具・紙	
安藤 重春	山間	1974(昭和 49)	岩絵具・紙	安藤重春氏寄贈
安藤 重春	午后	1973(昭和 48) 頃	岩絵具・紙	安藤重春氏寄贈
安藤 重春	雨の華	1979(昭和 54)	岩絵具・紙	
安藤 重春	バス		岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
安藤 重春	水道	1977(昭和 52)	岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
安藤 重春	庭隅	1985(昭和 60) 頃	岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
安藤 重春	皎	1987(昭和 62) 頃	岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
安藤 重春	虫	1990(平成 2)	岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈

展示室４－①　楽しい図譜の世界

この部屋では、日英作家による様々な図譜をご覧いただきます。
イギリスのトマス・ビューイックは、木口木版による写実的な挿絵で人気を博し、若者たちの博物学的関心を刺激しました。
一方、日本では明治期に美術品が海外流出の危機に瀕したことを発端に、行政主導の本格的な古美術調査が行われました。こうした活動の成果をまとめた『国華余芳』や『朝陽閣鑒賞』は、当時最新の印刷技術であった石版多色刷りによって本物を忠実に再現し、人々を驚かせました。
印刷技術の発展によって多くの読者のもとへ届いた図譜は、当時の学問や文化を支えたと同時に、ページをめくることでしか味わえない観る楽しみを今なお私たちに提供してくれています。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
トマス・ビューイック	『四足獣概説』	1790	木口木版／本	ローダーコレクション
トマス・ビューイック	『英国鳥類誌　第一巻　陸鳥編』	1797	木口木版／本	ローダーコレクション
トマス・ビューイック	『英国鳥類誌　第二巻　水鳥編』	1804	木口木版／本	ローダーコレクション
トマス・ビューイック	『博物図集』	1809	木口木版／本	ローダーコレクション
宇田川 榕庵	『植學啓原』第３巻	1834-37(天保 5-8)	木版・紙／本	明治版画コレクション
加藤 東里	『牧草図譜 第一輯』（農商務省蔵版）	1890(明治 23)	石版・紙／本	明治版画コレクション
	『波間の錦』	1883(明治 16)	多色刷石版・紙／本	明治版画コレクション
	（日本東京印刷局製造　局長得能良介選、印刷局蔵版）			
村井 聴泉	動物図（金港堂書籍　三間石版所）	1896-1900(明治 29-33)	石版・紙／本	明治版画コレクション
亀井 至一	『観古図説　陶器之部一』	1876(明治 9)	石版、手彩色、一部卵白引き・紙／本	明治版画コレクション
	（著述者出版人蜷川式胤、石版画師亀井至一、製造所玄々堂）			
亀井 至一	『観古図説　陶器之部二』	1877(明治 10)	石版、手彩色、一部卵白引き・紙／本	明治版画コレクション
	（著述者出版人蜷川式胤、石版画師亀井至一、製造所玄々堂）			
亀井 至一	『観古図説　陶器之部三』	1877(明治 10)	石版、手彩色、一部卵白引き・紙／本	明治版画コレクション
	（著述者出版人蜷川式胤、石版画師亀井至一、製造所玄々堂）			
亀井 至一	『観古図説　陶器之部四』	1877(明治 10)	石版、手彩色、一部卵白引き・紙／本	明治版画コレクション
	（著述者出版人蜷川式胤、石版画師亀井至一、製造所玄々堂）			
下国 羆之助	『観古図説　陶器之部五』	1877(明治 10)	石版、手彩色、一部卵白引き・紙／本	明治版画コレクション
	（著述者出版人蜷川式胤、石版画師下国羆之助、製造所玄々堂）			
	『国華余芳　正倉院御物』(印刷局蔵版)	1880(明治 13)	多色刷石版・紙／本	明治版画コレクション
	『国華余芳　古書之部』(印刷局蔵版)	1880(明治 13)	写真石版・紙／本	明治版画コレクション
	『国華余芳　伊勢内外神宝之部』(印刷局蔵版)	1880(明治 13)	多色刷石版・紙／本	明治版画コレクション
	『国華余芳　伊勢内外神宝之部』(印刷局蔵版)	1880(明治 13)	多色刷石版／本	大谷芳久氏寄贈、明治版画コレクション
	『朝陽閣鑑賞』	1883(明治 16)	多色刷石版・紙／本	明治版画コレクション
	『朝陽閣鑑賞錦繍帖　巻上』(印刷局蔵版)	1883(明治 16)	多色刷木版・紙／本	明治版画コレクション
	『朝陽閣鑑賞錦繍帖　巻下』(印刷局蔵版)	1883(明治 16)	多色刷木版・紙／本	明治版画コレクション
ジョン・ラスキン	『ヴェネツィアの建築』より	1887		
	カ・ベルナルド・モチェニーゴ窓の方立柱の柱頭		リトグラフ・紙	
	ビザンティン期の柱頭 トルチェッロとサン・マルコ聖堂		リトグラフ・紙	

展示室４－②　ドレッサーとアーツ・アンド・クラフツ運動

19 世紀後半のイギリスでは、産業革命によってものづくりのあり方が大きく変わりました。機械による大量生産が広がる一方、手仕事や職人の技を見直し、質の高いものづくりを目指すアーツ・アンド・クラフツ運動が起こります。
その中心人物であるウィリアム･モリス（1834-96）と同じ時代を生きたクリストファー･ドレッサー（1834-1904）もまた、素材や技術を活かした美しい日用品を追求しました。暮らしと美を結ぶ姿勢はモリスと共通していますが、ドレッサーは機械生産を否定せず、積極的に取り入れることで、すぐれたデザインを広く社会に届けようとしました。
方法は異なりながらも、ものづくりとデザインを問い直した二人の仕事は、20 世紀の近代デザインへと受け継がれていきます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
クリストファー・ドレッサー	足つきケトル		銅、木製把手
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きケトル		金属・電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック（青海波）	1879-1882 頃	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	銀製ティー・セット	1885	銀、象牙、金メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ、黒檀把手（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	緑釉サラダボウル（サーバー付き）	1879-82 頃	陶器、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きダブル・バスケット	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	色絵草花文隅切角皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	ゴシック模様タイル		磁器
クリストファー・ドレッサー	緑釉アカンサス型手付壺	1892-95 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉植物刻文把手付花瓶	1892-95 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉刻文花瓶	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	彩釉水差	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	瓶（茶色クルーサ・ガラス）		ガラス
クリストファー・ドレッサー	瓶（緑色クルーサ・ガラス）		ガラス
クリストファー・ドレッサー	プロペラ瓶（緑色クルーサ・ガラス）		ガラス
クリストファー・ドレッサー	花瓶（緑色クルーサ・ガラス）		ガラス
クリストファー・ドレッサー	ケトルとスタンド		銅、真鍮、鍛鉄
クリストファー・ドレッサー著	『植物学の手引き』	1860	本
クリストファー・ドレッサー著	『アート・オブ・デコラティヴ・デザイン』	1862	本
クリストファー・ドレッサー著	『装飾デザインの原理』	1874	本
クリストファー・ドレッサー著	『デザイン研究』	1874-76 頃	本

佐藤潤四郎	ステンドグラス・窯	ガラス、鉄	小林東洋氏寄贈

ロビー展示　彫刻・他

	作者名	作品名	制作年	技法・材質	
●１階	アントニー・ゴームリー	領域　XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
	アントニー・ゴームリー	量子雲　XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
	笠置 季男	躍進	1958（昭和 33）	セメント	
●２階展示ロビー	舟越 保武	少女	1956(昭和 31)	砂岩	
	佐藤 静司	子供頭部	1955(昭和 30)	木彫	佐藤静司氏寄贈
	木内 克	女の顔	1965(昭和 40)	石膏、顔料	和田敏文氏寄贈
	山本 正道	帽子を被る男の肖像	1970-4(昭和 45-9)	ブロンズ	
	佐藤 静司	遥か	1989(平成元)	ブロンズ	宇野洋子氏寄贈
●前庭	バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	